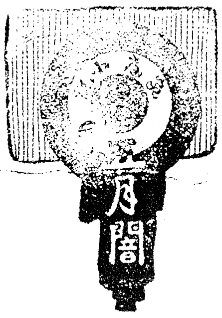
明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可（日刊）月曜及祭日の翌日休刊　明治四十二年一月五日（火曜日）　第二號　（一）

京城新報

◉拓殖と満鐵

南満洲鐵道會社は、漸く過渡期經營の新任を見、外債又成立して豫定の八千萬圓に充ち、上下役員一千餘名の大淘汰と分課の改廢とを行ひて特に會社の業務上に一新期を開かんとし、又東洋拓殖會社は愈々客臘廿八日を以て創立總會を東京に開き、其發程の第一歩に就かんとす既に今日に至る満鐵といひ。拓殖といひ。之が我國の經營として見れば固と二にして一、假令兩者事業の性質甚だ相同じからずと雖も。我國たる我國民の爲に必要なる事業として決して輕重大小あるべきにあらず蓋し満韓經營てふ擧は、日露戰後一時頻りに叫號せられたるに拘らず近時漸く其聲を絶ち或は幾分その緒に倦きたるの觀あるも實は我國民の戰後特に出精經營、確固不拔の基礎を据付けざるべからざるは、即ち満韓の經營に外ならず、満鐵の革新、拓殖の成立吾儕は遂に之を輕視し得ず、拓殖會社は未成品なるも満鐵會社は既に試驗濟なり、試驗濟なる満鐵は必ずしも其成績優秀なりといふべからず、强ひて之に評定を下さんには毀譽相半し功過相等しと言はんか即ち創業後二ヶ年以内にして廣軌鐵道の敷設を了りて蘇家屯以南の運轉を開始したる（本年三月）若くは副事業たる上海航路の開始（同八月）したるが如き、當に其成功を稱賛すべく、之に反して復線竣工の來年秋季後となり、安奉線改築の機に來春四月を以て着手せられんとする如き—には資金上の關係にも因るべしと雖も決して施設計畫の宜しきを得たるものといふべからず若しそれ撫順炭礦の出炭高が今尚一日千七百噸に過ぎずして豫定の出炭額一日五千噸に達するの數年後に期するの外なしといふは満鐵會社當事者の當に非難の責に任ぜざるべからざる所たるべし若しそれ満鐵の輸送力に至りては各驛滯貨の非難昨今頻出し大豆滯荷の苦情は尚一昨年冬季及び昨年春季の創業時代當時と略同一なるものあり先月に於ける大豆の大連着荷高が之を昨年同月に比して約二萬四千噸の增加を見たるは輸送力の增進なりとはいへ出荷大豆停滯の結果、昨今北部市場と大連方面に於いて相場の差違を生ずるものあるを見れば満鐵の輸送計畫に對して當業者間に非難苦情の續出するの無理ならざるを思ふ、満鐵道は露國經營時代に在りてこそ其縱貫線を主要の幹線なりと見做し得べけれ之を我國本位より打算する時には實は安奉線こそ寧ろ主要の幹線にして所謂満韓經營を以て相關聯せる一大事業と見做す上に於て安奉線の改築竣成は成るべきだけ急施を要すべきなれ該線の改築豫定額二千三百萬圓而して満鐵の當事者は動もすれば之を義務線視し既に第二回外債發額千二百萬圓と新外債手取額千八百餘萬圓とを有するに至りて漸く今春より之が改築に任ぜんとするが如き必ずしも經營施設の順を得たるものといふべからず蓋し南満鐵道會社當面主要の事業は安奉線の改築撫順炭の採掘および大豆の運搬輸出に在り從來米國よりの棉實と印度よりの亞麻仁とを専用したる英國の農業界が家畜の飼料に新に大豆を以てせんとするの結果最近少時日の間に満洲大豆一万二千餘圓の輸出を見たるが如き若くは撫順炭の新販路に關し目下米國と協議中なりと傳ふるもの〻恐らくは比律賓に同炭の供給を約せんとするものたるべきが如き孰れも満鐵會社主要業務に關する發展的好氣運たり然も此氣運に際して採炭量の不足と輸送力の不備とは實に惜むべきの甚しきもの也若しそれ拓殖會社豫定事業の主なるものにありては河川、堤防、山林の整理、港灣、道路の修設沿岸漁業移民奬勵に在りて一見必ずしも満州經營と關係なきが如きも鴨緑江畔木材業の満韓兩地の利害相關するを初めとし西北韓海漁獲物の安奉線一帶及び鮑嶽地方の好販路たるべき寛甸、吉林地方農產物特に豆粕が北韓一帶農業の開發に伴ひて一大需要を喚起し來るべきが如き満韓の產業上兩者利害の相關聯する甚だ少しとなさず更に政治交通の上より打算を下さんか満韓の二にして一なる満鐵の拓殖と異体にして同心なるこれが經營上施設の同様にして方針の一貫せるものあるを要とすべし今中村新總裁の下に鐵道會社發展の第二期に入り又東洋拓殖會社の創立に當り敢て吾儕平素の所見を述ぶ（大阪毎日所載）



（九十二）　河合柳葉

云ふだけの理窟は云つたものゝ、若い情夫を持つた弱味ある三輪子は、大山の辭に早くも機嫌を直して、

「まあ、それは然うとして置て、お前さんに聞いて見たいのは、此間から屋敷に來て居る、あの山川と云ふ男だがねあれは爲雅が俳諧とかを教はる宗匠だと云ふ話であつたけれど、何だかあの君子の室へ時々行く樣子が見ゆるが、あれは一体奈何云ふ譯なんです、假初にも爲雅の何だか位は知らない理でもあるまいに爲雅は知らないのか知ら。」

と、不興顔に云ふ、大山は今日は如何なる悪日かと思ひながら、

「お疑ひ遊ばすも御道理ですが、しかし彼の宗匠と申しますのは、異例を申し上げますと、君子樣のお兄樣で居らッしやるのでございます、御前樣が君子樣を御懸望遊ばした節に、お兄上もお屋敷へお引取遊ばす御約束になつて居りましたゆゑ、それで此度お迎へ遊ばしましたので、君子樣のお室へお出でになるのは御前樣も御承知で居らッしやるのでございます。」

「まあ。」

と呆れた如く云つて、

―すると、宇治の爲雅が發句を習つて居たと云ふ宗匠なんだねえ。」

「御意にございます。」

「では、君子を屋敷へ置く限りは、あの宗匠も一生屋敷に置かなきやならないんだね。」

「……まあ〜、然う云つたやうな理でございます。」

「爲雅も爲雅なら、お前さんもお前さんぢやないか、御前樣何時と限らず屋敷へ置かなきやならない人なら、始から私に斯々だと聞かして下れたつて宜いぢやないか、しかし君子の兄で始めから引取る約束が爲てあつたものならそれを今更左や右ふ云ひませんけれど同じ世話を爲てやるにしても屋敷の中に置くと云ふことは、他の召使の手前もあるし、又親戚などへの聞ゑも悪いから、他に家を持たすやうに爲して下さい當人も屋敷の中に居て食客になつて居るよりか、何程其方が安心だか知れないだらうし私の方でも面倒がなくて宜いんだから……」

「しかし、それは御前樣に申上げました上に致しませんと、私が直に取計らひ致しかねますから、どうぞ貴女樣から御前樣へ然う云ふお話がお願ひ致したう存じます。」

「そりや、私からも折があつたら云ひますけれど、左に右お前さんから左樣話して下さいな。」

大山は、可厭とも云ひかねて、

「致しますると、何と仰せになりまするか左に右お話し致しまするでございます。」

「假へ爲雅が何と云はうとも、此方から總ての世話さへ爲てやれば、無理に屋敷へ置かなきやならないと云ふ理はないんだから成るだけ早く然ういふやうに計らつてやつて下さい、それでないと他の召使などに君子の兄だとも云へないし、あゝして君子の室へ行く所などを見ると、どんな風評を爲だすか知れないからねえ。」

「左に右お話致しませう。」

と、挨拶して起ちかゝれば、三輪子は、

「では先刻の事を忘れると承ませんよ。」

可厭らしい目色をして眺めた。



京城新報

統韓方針
政治初めに就て

帝國が韓國の保護統治に着手してより玆に三歲、表面上に於ける諸般の設備に就ては見るべきものなきに非ず、殊に中央政體の設備に於ては通れて文明國と異らざる觀を呈せり、法令の如きも事實に於て行はるゝと行はれざるとに關せず美事なる法文の發布せられたるもの尠からず、地方行政體に於ても然り表面上に於ては帝國の地方政體と異らざる面目を備へたり、若し夫れ形式の設備を以て効績となさば韓國統治は優に成功したるものなり、然れども靜に韓國現在の狀態を觀察し來れば遺憾ながら形式は其實に伴はず、[illegible]に難からず此狀態を以て將來に繼續せしめば恐らくは保護統治の實效を擧ぐるの期なからん乎、伊藤公が帝國第一流の政治家として英雄の姿を以て老後の思ひ出に畢生の力を揮て之に臨み給ひつゝあるも其實蹟の擧らざるは如何に原因する乎、憚りながら是れ伊藤老公の力量足らざるに非ず、其威權を欠ぐが爲にも非ず、唯韓國民を扶導統治するの根本方針を誤れるに原因す、換言すれば韓國民を標準とせる結果に外ならず、夫れ政治の要は最大多數者の最大幸福を標準とするにあるは勿論なり、伊藤公は此標準の解釋に於ても亦誤解せるに非ざる乎、帝國が韓國を保護統治するに於ては最大多數者の最大幸福を如何に解釋する乎、憚りに伊藤公は韓國に於ては韓國民を本位とするを至當なりと思はるゝならん乎、果して然らば之れ此義の解釋に於て謬れるの甚だしきものなり、帝國は近く極東に於ける文明宣傳の使命を帶び、遠く極東永遠の平和的基礎を築くの使命を帶ぶ、韓國を保護統治するの意義亦之に外ならず、玆に於てか最大多數者の最大幸福たる標準は明に定るなり、帝國の國是に從はしむるを以て此意義を闡明するものなり、韓國本位は明に此意義に反するものと斷定せざるを得ず、之れ最も見易き道理なり、世界の文明を增進する點より見るも韓國民を本位とするは恰も阿弗利加土蠻を本位として文明を宣傳せんとするが如し、之れ決して最大多數者の最大幸福にあらず、英米佛獨諸國が殖民地若しくは保護國を統治するに於て各自國の國是を遂行するに努むるも蓋し之が爲めなり、帝國の統韓政策が意の如く擧らざるは此根本問題に撞着する所あればなり、余輩は伊藤公に向て此根本方針の確立を切に要請せざるを得ず、若し夫れ從來の如く韓國本位を以て扶導誘掖せんとするに於ては到底韓國をして帝國の國是に從はしむるの期到來せざらん、寧ろ強行して帝國の方針に從はしむるを以て韓國民將來の幸福たるなり、徒に韓人の意を迎へつゝ扶導せんとするが如きは所謂宋襄の仁にして渠等を救ふ所以に非ざるなり、一時は頑冥なる渠等の反感を買ふも速に蒙を啓かしむれば夫れだけ渠等の幸福たるなり、由來韓國民は形式のみを貴ぶ種族なり、之れに向て形式を敎ゆるは益々虛飾心を增長せしむるに過ぎず、此種族を扶導して帝國の國是に從はしむるには嚴として心理的の革新を命せざる可らず、之れ帝國を本位として總ての施設をなすの必要なる所以なり、適切に論ずれば扶導するよりも斯くすべしと命せざる可らず、斯る權威ありて始て帝國の使命を完ふすることを得べきなり、余輩は今新年の初頭政治始に就て深く之を感ずる儘記して以て當局者に警告す、

▲伊太利震災後報
ルーター電報

伊太利の地震はシシリー島にて死者七万カラブリヤの死者三万シシリ市は全部潰決せり英露軍艦よりは糧食を送り伊國皇帝皇后は八千磅を下賜し尙震災地に出發あり到る處掠奪始まり兵士は盜賊を銃殺しつゝあり（一日發東京經由）

▲韓刺客處刑
桑港電報

スチーブンス氏を殺害せる韓人二名は審理の末二十五年の懲治監入りを宣告せられたり（三日發東京經由）

▲最近御製
東京電報

天皇陛下最近御製左の如し
しばらくはとゞこほりても
つらぬくは人の心なりけり
（一日發）

▲韓太子御避寒
韓太子は三日より鎌倉に御避寒あらせらる

▲新年の景況
新年は晴天打續き市中は賑へるも初荷は例年に比し稍寂寞の感あり

▲米淸同盟の失敗
唐紹儀の使命たる米淸同盟は米國政府に其の意無きを以て失敗に歸せりとの報あり（以上二日發）

▲伊國へ御見舞金
天皇陛下は伊國震災御見舞の爲め金一万圓寄贈あらせられたり（三日發）

雜報

●統監の蠶島視察
伊藤統監は三日午前十時村田武官、國分秘書官、小山技師及び農商工部中村局長を隨へ蠶島に赴きたるが同所に於て先づ水道の水原および漢江沿岸に山の如く栽積せる薪炭の輸送狀況を視察し夫れより園藝模範場に至りて同場を視察し勸業に關する訓示演說を爲し午後三時歸邸せられたり

●東洋拓殖の大株主
東洋拓殖會社は總株數二十萬、株主八員七千百六の多數なるも應募申込超過の結果割當を低減せられたる爲め大株主は案外に少し即ち千株以上の所有者を擧ぐれば如左
六萬株韓國度支部大臣△六千株內藏頭渡邊千秋△二千株韓國宮內府內藏院卿崔錫敏△千四百一株野村郁藏△千四百一株野村實三郎△千四百一株豐田壽三△千四百株片山增次郎△千四百株山田由寬△千四百株野村元五郎△千四百株野村德七△千三百株梨本宮家令△千九十六株八代謙之助

●韓皇の地方行幸
韓國皇帝陛下は本月七日より水原大邱釜山馬山の各地方へ民情視察の爲め行幸あらせらるゝ旨本日官報に仰せ出さる詳細は明日發表の筈なるが伊藤統監以下各大臣其他多數陪從する筈なりと云ふ

●統監の見舞電報
伊藤統監は去る二日伊國皇室に對し御見舞の電報を發したるに昨日同國皇帝陛下は伊藤統監に左記の御親電を賜はりたり
卿の親厚なる同情を萬謝す

●嚴妃の姙娠
本年五十六歲なる嚴妃は目下姙娠中にて來る三月頃分娩すべしと云ふ太皇帝と云ひ嚴妃と云ひ老ひて益す盛なる事なり

●韓國移民規則
臨江縣一帶の韓國移民に就ては過日協商問題を起せしが其後奉天官憲は種々講究したる結果今回下の如き規則を定め東邊各地方官及駐韓淸國領事を經て統監府に通牒せり
（一）韓國移民に對しては充分の保護をなし居住の自由を許し再び制限を加へ故障を惹き起さゝる事（二）今後韓國の移住民は東邊道臺の保證を得て東邊外地に赴き開墾を爲すを得（三）地方官は耕地を貸與して農業を營ましめ且移民の戶籍を調べ總督に報告する事（四）韓國民の淸國に歸化を願ふ者は淸國人と同樣課稅を爲し毫も苛酷ならざるべき事

●駐韓軍縮少せず
駐韓軍司令部は增遣師團たる步兵第十二旅團旭川步兵聯隊及び騎兵四箇中隊の撤退と同時に其の縮少を爲すべしとの說ありしも當局にては武裝的なる軍司令部の永續は希望する所にあらざるも韓國の現狀は猶當分之が存續を必要とするものあるを以て長谷川司令官の轉補に際しても特に大久保大將を補任せしなりされば一部の軍隊及び警察力にて十分秩序を維持し得るに至らざる限りは其の撤退も亦不可能なりと

●浦鹽閉鎖案運命
露都よりの報に據れば上院特別委員會に附託せられたる自由港閉鎖案は十五名の委員中十三名は存續に左袒したり尙は實際閉鎖期は露淸國境五十露里無稅貿易協定の滿期後即ち千九百十一年後ならんと云ふ

●宮中の御陪食
本日正午宮中に催さるゝ皇帝の御陪食は統監、副統監、石塚總務長官代理、鍋島外務部長、村田、外波兩武官及び古谷、國分、佐竹の三秘書官なり

●統監の德壽宮伺候
伊藤統監は去る二日村田武官および國分秘書官を隨へ德壽宮へ伺候、歸途長谷川大將の官邸を訪問し午後五時歸邸せられたり

●長谷川大將有志招待
長谷川大將は六日午後六時より民間有志者を花月樓に招待し留別會を催す由

●長谷川大將送別會
京城居留民團にては民團の名を以て十日午後一時より第二尋常高等小學校に長谷川大將を招待し送別會を開き午後五時より花月に於て晩餐會を開く筈なりと云ふ

●長谷川大將の招待會
同大將は四日午後二時より官邸に統監、副統監、村田、外波兩武官及び古谷、國分、佐竹の三秘書官を招待し晩餐を饗せり

●新內閣推撰
李總理大臣宋內部大臣は共に時の非なるに鑑み辭職と決心し李は朴泳孝を宋は李容元を總理後繼者として伊藤統監に向つて推撰したりと云ふ

●李完用の招宴
李總理大臣は一昨三日伊藤統監其他をソンタク邸に招待し新年の祝宴を爲したり

●懲罰法見合せ
韓政府傭聘官吏懲罰法は一部法官の提案に因り制定せられんとせしも伊藤統監の意見に因り一時見合せとなりたりとの事なり

●本年度裁判所開廳
新設裁判所は昨年度內に於て大審院以下夫れ〳〵開廳し來り開廳に屬せるは區裁判所百十二の內七十二なるが這は本年中に二回に分ち第一回に四十箇所第二回に三十二箇所を開廳する方針なりと云ふ因みに財政の都合にて區裁判所開廳に伴ひ當然必要なる警察官の增員豫算より刪除せられたるため裁判所開廳に困難を感ずと云ふ

●支那葉錢の侵入
支那葉錢は韓國葉錢より相場安き故奸商は支那葉錢を輸入して韓國葉錢に混用して使用せるものあり葉錢驅逐を勵行の今日速かに此等の奸策を退治せざるべからずと或銀行家は語れり

●尼崎船の群山開航
群山航路は郵船廢航以來商船を重とせしが過般尼崎汽船會社は其の韓國西海岸航路船を群山にも寄港せしむることゝなり目下商船と協定中なり尚同地の取扱店は家房吉氏にて多分本月中には其の初航を見るべしといふ

●京城局年賀郵便
京城郵便局に於ける舊臘十二月十五日より二十九日に至る特別取扱の年賀郵便は左の如し

日	數	日	數
一五	四七〇	一六	三二〇
一七	五一二	一八	四四〇
一九	一、三三五	二〇	二、六五一
二一	三、二六〇	二二	四、二六八
二三	八、九二七	二四	八、九二七
二五	一六、六五七	二六	二四、八三一
二七	三六、八四〇	二八	五一、一一三
二九	七八、七二七	計	二三九、二七四

次ぎに同局の三十日より一月三日迄に至る普通郵便物引受數及び配達數は

日	引受の部	配達の部
三〇	一〇、七六八	……
三一	一四、六七〇	……
四二、一、一	一三七、六七三	七八、二五二
二	六九、四九一	六四、九八七
三	六九、一五六	八五、七四七

●南浦の電燈設計
鎭南浦の秋本理事官は同地の發展に就き昨年來種々計畫中にて築港及び電燈事業の如きは其の最も熱心に意を注げるものゝ由なるが電燈會社設立に就ては載寧鐵山の鐵鑛を日本に運搬する船舶が歸航のとき積荷なきゆゑ之を利用して九州石炭を輸入せば一噸八圓位にて着するにより之を以て動力に供し得べしとなし專ら勸誘獎勵中なりと

●北韓牛疫の猖獗
北韓の牛疫は隆熙元年淸津に發生して以來昨年一月には穩城地方に於て病勢頗る猖獗を極めたる爲め地方農民は故鄕を捨てゝ渾春又は間島方面に移住する者續出するに至りしが爾來會寧、茂山、雄基の地方にも亦發生し現今は鏡城地方最も猖獗を極めつゝあるにより農商工部に於ては俄かに二名の技師を增遣して之れが豫防に勉むる筈なるが其の病源は間島より來りしものゝ由にて農業家は此際大に注意すべきことゝなりといふ今其の牛疫發生當時より昨年末に至る狀況を表示すれば左の如し

咸鏡北道牛疫發生數（十二月廿二日調査）

地名	發病數	快復數	斃死數	撲殺數	現在病牛	發病月日	終熄月日
穩城	一七	…	一七	…	…	一月一二	三月二七
鍾城	三	…	三	…	…	一〇、一五	三、九
會寧	一六	四	一	一	…	七、二 二、五	八、二 三、九
茂山	三	四	六	一	…	九、一	…
鏡城	四	…	三	…	一	一二、三	…
雄基	八	一	七	…	一	一二、九	…
富寧	六	三	三	…	一	一二、七	三、一
淸津	七	…	七	…	…	隆元年二下旬	同二年三下旬
計	二二	三	一五	一	三		

●學部の新廳舍
旣報學部の新廳舍は愈々落成し年末休廳間に移轉の運びをなし昨日より新廳舍にて執務せり

●京城各官衙の御用始
統監府及び各部並に其の他の諸官廳は昨日一同出席し御用始めをなせり

●高等官の招待會
統監府高等官一同は來る十二日午後六時より長谷川大將、本田中將を主賓として晩餐會を催らす筈にて鍋島、村田兩氏より夫れ〳〵招待狀を發したり

●仁川諸官衙事務開始
仁川稅關は去る二日より事務を開始したるが仁川に於ける其の他の官衙及び會社は昨日より事務を開始せり

●米豆取引所の初手合
仁川米豆取引所は昨年來久しく休業中なりしが愈々本年より開業することに決し昨日正午より同所に於いて盛大なる開業式を擧行し初手合をなしたり

●穀物協會初手合
仁川穀物協會にては昨日午前十時より同協會樓上に於いて開業式を擧行し本年の初手合をなしたり

●韓字新聞の押收
米國在留韓人の經營に係る共立新聞第六第八第九號は治安を妨害するものと認め一月二日付を以て內部大臣は當日發賣の新紙を押收せり

●最近北韓明太漁況
新浦近海に於ては本年は初漁期より非常に不漁にして或る漁船の如きは一時休業せるものさへありたる程にて約一週間許り前に一時豐漁ありて各船共皆滿載して歸港したる位なるに其後再び不漁となり念はしき漁獲なかりしが舊臘十五六日頃より又濃厚なる魚群來游し非常の大漁となり一日一隻の漁獲高五駄乃至六駄餘に達し一時消沈せし同漁場は俄に景氣付き出漁船益々增加の趨勢あり目下新浦を根據とし出漁せるもの四百餘隻陸臺より出漁せるもの三十隻餘あり漁場は馬養島附近にして漁具は殆ど手繰網のみなり而して新浦より出漁せる漁船は平常農業に從事せるもの多きを以て漁期中と雖も不漁の際は往々休業する事あるも陸臺の漁船にありては專門の漁夫なるに依り漁期間缺かさず每日出漁し從つて漁獲高も新浦漁船に比し多しと云へり相場は新浦渡し一駄十九圓なれ共現今の如く豐漁續く時は多少下落すべく卵の鹽漬は一壺（約三貫目入）四十錢內外にして昨年と略ぼ同値なり本品の本邦に輸出し始めたるは再昨年頃にして爾來年々輸出額增加し一昨年中に於ける輸出高は二千七百九十七個價格四千八百八十七圓余なりしが昨年に至りては十一月二十一日初めて輸出したる以來今日迄既に二千四百七十個價格六千二百余圓に達し今後豐漁に伴ひ益々增加の傾あり然るに一方販賣地たる下關、大阪等に於ては輸入既增の結果供給過多となり且氣候溫きため往々腐敗したるものを生じ一向捗々しからず荷閊ひとなり相場下落の模樣なりと云へり因に昨年の明太漁輸出金額一昨年に比し多きにも拘らず個數少きは容器の大なるに依る

●居留屆と退去屆
明治四十一年一月より同年十二月三十日迄京城居留民團役所へ屆け出でたる居留屆および退去屆數は

種別	件數	男	女	合計
居留屆數	六九五七	六、四〇〇	四、六六二	一一、〇六二
退去屆數	三五三六	三、五五二	四、〇〇〇	七、五五二

●鴨綠江の架橋工事
本年解氷と共に起工さるべき鴨綠江の架橋工事に就いて聞くところによれば同橋梁はジャンク其他の船舶通行に差支なからしめんが爲め開閉式を採用することに決定したりと

●安奉線の改修實測
安奉線は本年四月下旬より改修工事に着手するに就いては尙は實測確定すべき箇所ある趣にて近々其實測を始むべき筈なりと

●近事片々

▲伊公　吟じて曰く蹇々匪躬節愈貞老來異域又逢春客居三載無殊績愧說新詩上紫宸と
▲此詩　を誦めば伊公の大人物躍如たり果して其心事が此詩の如くあるべき乎抑如何
▲老來　異域又逢春とは異の述懷ならん蹇々匪躬節愈貞とは亦乃公の得意とする所乎
▲客居　三載無殊績とは謙遜の美辭なれども異に衷心より君かく三省せらるゝや否や
▲統監　政治の成蹟は別として此詩は老公近來の傑作なり果して天眞流露なるや否や
▲公の　詩には何時も英雄とか何とか豪傑めきたる文句あるも此詩は此僻なきぞ嬉し
▲會禰　西湖子の歌は何時も感心仕らぬ乎は抑て詩の方は堪能なり所謂下手の橫好乎
▲何時　ぞや敎育家に向て賦したる人間の妙訣有無言の詩杯は頗る振ふ且つ上田來也
▲酒脫　を旨として薬明都々逸をぬたくるが得意なれども進境を見ざるは蓋し遺憾也
▲伊公　の詩は老來愈々進境を見る今日に於ては最早矢土錦山君の添刪も要すまじ乎
▲山縣　公は滅多に詩は造らぬが和歌には堪能也詩も興に乘じて賦すれば絕品ある也
▲英雄　的慷慨的の詩を好で造るは伊公と渡邊無邊也無邊俠禪近來吟どして聞るなし
▲伊公　の女婿末松子に至ては頗る上手也詩に於ては伊公は到底及ぶ所に非ずとは異
▲新年　初頭に於て列國外交方面を觀察するに何れも昨年の問題繼續して事端多らむ
▲先づ　巴爾幹半島は稍小康なるが如きも未だ解決するに至らず尙一悶着は必ず起る
▲墺土　の協約は如何に結末すべきかセルウイヤモンテネグロブルガリヤは抑も如何
▲墺國　の合併問題も獨逸の聲援あるも露佛英は依然として伯林條約を主張し居る也
▲波斯　も尙ほ今八心騷擾し露國の勢力頗る樹立せるが如きも獨英の勢力も又重し矣
▲露國　の外交も中々巧みなれども餘りに巧に過ぎて往々破るゝこと少しとせざる也
▲モロッコ　事件も尙未だ落着したるに非ず不相變佛獨の疾視は絕たず今後は如何ぞ
▲淸國　も依然不靜なるが如くなれども何となく暗流の迸る氣味あり如何に成行べき
▲現時　の儘を以て靜穩に推移すると斷定するは幷は全く實情を知らざるに依る者也
▲伊太　利亞の震災は實に悲慘極まる稀盟國の臣民として滿腔の同情を寄與する也
▲火山　國は山光水色明媚なれども此震災あるには閉口す[illegible]日本も大に戒愼を要す

●悲劇の反影か(續)

▲同情すべき男女の立話

余は物好きにも彼等男女の後をつけたり、男女は尚道すがら喃々として語りつゞけつゝ行く、其きれ〴〵に聞ゆるは男の聲として「そうでもして明日の暁を經過せば藝術もあるべし此當の機に取掛し若勢をすれば限りなし自分だつて男だお前一人位を困らせる樣なことは斷じてしないお前も知つての通りれが今計畫しつゝある事業が成功すれば一生お前にそんな苦勞はさせないそれを思へば此位の辛抱はしてくれてもよかろう世は實に有爲轉變惡い事のみ續くものでない惡い後は善い事の來るものだ春になつてあの事が立派に成功して見ろ今の悲しみはうつて替て非常の喜びとなるのだれも此苦痛は決して一世忘れはせぬ、お前もどうか其積りで忍耐して呉れ」としみ〴〵と言ひきかせて森と女の身を抱き占む女は尚ほ啜り上げては居るが男の親切を深く感ずるもの〻如く其言ふ事に能くうなづきつゝあり、斯くして渠等は橋を北に渡りて川に添ふて東に向ひ横町に入りしとある韓人家屋に入れり、之れ抑も何者ぞや渠が住居は果して此韓人家屋なりや、家に早く歸らうと彼の男が言ひし所を見れば茲が即ち渠等の住居なるに相違なし、渠等は何故に日本人の住家なき此韓人部落の温室に住居しつゝありや、渠等が談話の模樣より推測するに假令公然の夫婦にあらざるも彼女の伯母も承知との事なれば滿更かくれ居るべき夫婦ならじ、然るに一寸判り難き此韓人家屋内に棲むは經費上より來る結果なるか、男の身裝と云ひ其計畫せる事業を云ひ經費の點より茲にかくれ家を求めしに非らざるべし、而して女の身裝とても賤しきものゝ風情にも非ず、斯く考へ來れば益々疑惑を生ぜざるを得ず、所謂世の竹の柱に茅の家根の浮きたる中にもあらざるが如し、惟ふにては事業の蹉跌に逢ふて債鬼頻りに迫りて身の置き所なき爲に一時再擧を謀る迄の隠れ家たるに疑なし、談話の模樣よりすれば或る一部の者より此隠家を見出され此夜茲に荒ばれ込み此女にまで大なる侮辱を與へたる爲に其場に居たゝまれず逃げ出して伯母の家に至らんとして種々に考へ込み居たるに非ざる乎、余の好奇心は益々昂上して其眞相を明にせまほしく思ふに至れり、されど韓人等に聞かんとすれど最早寐靜りて其詮なし、さらば短刀直入本人に問はんか之も無禮なり、よしさらば明日再び來て精しく探らんさて余は種々感に打たれながら家路に迴りぬ、翌日朝飯の畢るや否直に飛出して再び此家の前に來りし頃は十一時過ぎなりき、此家の韓人に聞きたるに今朝何れかへ移轉したりと、余は只呆然たり、韓人の語る所に依ると女の年は廿二三にて頗る付の美人にして男も亦三十五六の美男子なりきと此男女は抑も何處に移轉せしや、噫や新らしき隠家に睦ましく新年を迎へたらん(をはり)

●長唄の大流行

▲上流家庭と音樂

近來我國に於ける音樂の漸く盛んなるに連れて孰れの家庭にも殆んど物の音の聞へざるはなく別けて派出やかに且つ富饒なる上流社會には書棚と並べて洋琴を据ゑる手輩召して音樂教授所に通ふ夫人令孃さては家庭に教師を聘して教則本を習ふ公達さへ少なからず從つて令孃の嫁入道具にはピアノは一臺必らず無くて叶はぬやうになりたるも面白し茲に序でもて申さんは恐れ多けれど只かに承はる所によれば東宮御殿にも冬の夜長の徒然には妃殿下のピアノ彈き給ふに合せて殿下の「君ヶ代」など歌ひ給ふみじき鳳鸞和鳴とは斯る御例しもやいふならんなど御側の人々畏み申し合へりとか高輪宮は幸田御用掛に就きてピアノを學ばせ給ひ折々は佐々木御養育主任の令孃など召してピアノヴァイオリンの合奏に御興を催させられ麻布宮にも杉浦東京音樂學校助教授を召して學ばせらるゝピアノ中々御堪能なりと承る降りて華族社會は音樂全盛の有樣にて中にも松平賴和子の如きは音樂といふ所有音樂に長じ琴、尺八、謡曲は云ふも更なり洋樂も式部職の樂部に勤むる程わりて全くの黒人なるよし此他若手にては目下帝國大學に在學中なる龜井伯など素人としては充分なる技倆ありといふ但し斯程全盛なる音樂も實は當世の教育を受けたる公達令孃が主になつての事にして昔氣質の年長じたる人々は往々にして洋樂を歡迎せざる傾あり其結果最も多く家庭に用ひらるゝは在來の箏曲が第一なるよし而して日本音樂の勢力の復興と共に箏曲に次では長唄の大流行を來し假令自ら撥取らぬ迄も邸内に催さるゝ宴會などの餘興には必ず長唄一二番を組入るゝが昨今の常例となり從つてピアノなりヴァイオリンなりを好める向きも「勸進帳」などの日本樂譜を歡迎しつゝあり樂器店員の談話なりと云ふを聞くに上流社會に向けては第一ピアノ第二ヴァイオリンといふ賣行なれど其賣高は去る三十八年が最も多く此兩三年は稍や下火なりといへり一つは不景氣の影響もあるべけれど亦た日本樂流行の一反映ならずばあらじ近時韓國に於ても此種の趣味益々深きを加ふると同時に義太夫、長唄等の流行益盛んとなり京城に於ける長唄嗜好會の如きは近來著しく盛會となり紳士、淑女の入會者も頗る多く殊に曾禰副統監の如き常に新作を物して同會に寄贈し居らるゝ有樣なり、要するに洋樂は若夫人、令孃等の一部の間に於て流行し居るも依然として日本音樂殊に長唄が益流行を極むるならんと云ふ

●菊地少將の憤死

▲休職となりたる爲め

咸鏡道北靑駐屯陸軍少將從五位勳三等功四級菊地節藏氏(五十)は平素部下の氣受も宜く且温厚篤實好個の武人なりしが去る十月命を受けて渡韓第六十四聯隊長として北韓守備の任に當り(當時大佐)功績少からざりしが客臘二十三日陸軍武官進級發表と共に特に少將に任ぜられしと直に豫備役仰付けられたるより同氏の失望一方ならず武人として此抱負茲に行ふの途絶はたりとなし爾來鬱々として樂まざるの色ありしが遂に同二十六日北靑の旅舍に於て自刃する旨の簡單なる電報を知人の許に達したるが夫かあらぬか同日附を以て二十九日の官報に位一級を進めて正五位に叙せられたり少將は舊幕府の士にして籍を新潟縣に有し明治十年四月十二日始めて少尉に任ぜられ爾來累進して今日に至りしと、同少將は日露戰役當時名古屋にて後備步兵第五十一聯隊の組織せらるゝや名古屋聯隊區司令官より同聯隊長に轉じて鴨綠江軍に從ひ後現職に轉じたるが日淸戰爭後は多年滿洲にありて同地の事情を研究したる有爲の將校として目されたる人なり性質寛厚温順にして部下に對しては親切なること親の如かりき尚少將は名古屋聯隊區司令官となる以前一度休職となりたることありし當時にも一度發狂したるが今回の休職に對し再び精神に異狀を來したるものならんと

●京仁の消防出初式

▲京城消防組　は昨日午前九時出初式を擧しが席上桐原南部警察署長より訓示ありたり

▲仁川消防組　昨日午前九時より出初式を擧行したるが其の模樣は午前七時警鐘二點にて各消防夫理事廳前に參集し直に宮舘署長及富田民長の訓示を受けたる後日本公園内太神宮及び市中各要所にて水力試驗及旗乘をなし午後散會したり

●女斬り犯人就縛

去る一日の本紙に長谷川町の女斬りと題し記載せし旭町一丁目森川ゆきの左手に刺身庖丁を以て斬付け逃走せし熊本縣玉名郡高瀬町當時旭町一丁目飯田方富田光治(二七)は同日午後八時三十分頃黃金町を徘徊中長野、工藤兩刑事に發見され被害者ゆきの櫛を所持し且つ衣類に血痕附着し居りしかば準現行犯として逮捕し南部署へ引致し檢事局行となる

●井中に落て往生

仁川平洞居住の水汲嚴昌順と云ふは一昨日午前中同地花房町各國租界地内井戸にて水を汲み居りたる際誤まつて墜落して溺死したるを同日午前十一時頃附近のものに發見せられたるが時既に晩く縊切れたる後にして蘇生せざりしを以て形の如く檢死をなしたる上家族に引き渡したりと

●支那料理屋で亂暴

旭町二丁目二十五番戸居留民奥田三之助(四一)は去る二日午後八時頃南大門通三丁目支那料理德源樓に於て痛飲せし揚句亂暴狂態を演じ器物を破壊するにぞ同樓より斯くと交番へ訴へ出で巡査出張説諭せしも之れに應ぜざるを以て南部署に引致し損害を償償せしめて放還す

●演藝たより

●本町座の酒井政俊一座は撰り拔なるだけ其れだけ人氣も好く連夜大入札を掲げ●歌舞伎座、壽座又何れも好景氣なるが本町座今夜の替りは雲間の明月にして重なる役割は

家令里山透(石巻)琴澤夫人、龍公妻れたつ(堀江)鹽山周造(吉川)馬丁芳藏(田宮)岡山孤兒院長石井重次(松村)深津武雄(藤原)武田建三(福井)赤木曲(秋岡)陸軍少尉春日明治(阪本)中山曹長(櫻木)深津督親(佐海)深津光枝(島村)車夫龜公(酒井)

●歌舞伎座伊井一座の今晩の替り狂言は琵琶歌全十場にして役割左の如し

武田定治(伊井)横田軍曹(内藤)武田政治(岡島)武田母(八千代)渚江令孃(愛月)新井三藏(松尾)里の(松岡)西村禮太(篠田)

●大劇場の建設乎

川上の渡韓が動機　▲建設地は龍山　▲革新劇渡韓見合せ

京城否韓國各居留地の娛樂機關の不設備にして海外在留者として連日の勤勞を慰藉するに足らざることは吾人の屢々論じたる處なるが客臘突然渡韓したる川上音次郎より記者に宛てたる書信に依れば「同人の計畫せし革新劇は到底目下の如き小劇場にては利益の如何に係はらず看者をして滿足を與ふるが如き設備整はざる爲め當分渡韓を見合はするも日日發展せる京城として現今の如き二三の小劇場にては到底將來とても完全なる演劇の渡韓覺束なきを以て差當り比較的大劇場の建設を爲さんと既に大林芳五郎、大倉喜八郎兩氏の贊成を得たれば此上は京城に於ける某々有志等に相談し追て事實として着手に至るべし云々」尚ほ聞く處に依れば建設地は京城に非ずして龍山なる某所に貳千坪の敷地を見立て川上の滯京中既に成案せしもなりと

●京城歌留多大會

同會は會場其他種々なる都合に依り詳細は七日の紙上を以て發表すべしと

●於壽司　むら

正月早々縁起でもないことを書く樣だが、貧乏すると兎角に●●もの●が食べたくなる、食べたくなるのも强い、決して之れが惡るいけれども其處が夫れ貧すれば鈍するで自分で自分がひけるので●●ある、僕には到底真似は出來ぬ、武士は食はねど高楊子といふが、食はねば矢張りひもじい●●●。僕は負け吝みは嫌ひである、故に如上の白狀を致して置く●其處でだ。僕は二日の夜であつた、急にすしが食べたくなつた、敢て急にと云ふ、然り速に食べたくなつた、故を以ても少し大袈裟だが、僕の日常懇意にして而して贔負にする夫婦ずしを食ふべく行つた、而して食つた、其處は邊りに御居でなさる方には甚だ失禮かは知れぬが、京城ですしは先づ此の宅のである、嘘ぢやない、僕の樣に腰を掛けてつけたてを食べて試たまへ、死んだ、鳥貝や、かじきの脇、拔けの●●山葵を利かして貰つて、二口に食つちや駄目だ一口に頰張る其味ひと云ふものは他にない決してない。●小鯛のすしも善しい、かだ、●すしとしては小鯛などは決して上等の部ではないのである、多少下卑でもこはだである、白魚は駄目である、鯖も駄目である、赤貝が結構である、鯖の丸すし、烏賊のそれもよい、けれども京城では、夫れを賞玩する程な馬鹿な人がない、此の寒いのに袷を着て顫へながら赤貝のすしに鼻を摘んで涙を滾して嬉しがる程の馬鹿な人はないのである、然るに僕は夫れさする、するが故に貧するのである、と悟つたからモウ止さうと思ふ、止さうとは思ふが夫婦すしはうまいと思ふ、併し斷つて置く、これは僕一個人の言議であつて決して我社の意見ではないと呵々。

漢城病院ヲ辭シ本町二丁目四番戸(元岩田寫眞館)跡ニテ耳鼻咽喉科眼科外科花柳病ノ診療ヲナス
診療每日自午前八時至夕
入院隨意赤貧者ハ施療ス
元漢城病院耳鼻咽喉科眼科主任
從七位醫學得業士 中村健吉

産婆開業
明治町一丁目五十九番戸
中島圓子

鴨綠江特種木材九州セメント取次販賣
末口一尺八寸以上長さ五間迄其他各種材
京城旭町三丁目
建築業 柴田芝六
電話五六八番

青々園
風味趣味實質の三者を兼備す
正銘宇治茶京都の茶器
故に尤も進物用に適當なり

茶及茶器商
京城本町四丁目
青々園茶舖

京城大和町二丁目
漢城製藥所
所長 從六位勳五等 渡邊悅之輔

營業科目
製劑之部
丸劑、座藥、錠劑、軟膏、硬膏、繃帶材料
其他日本藥局方一般陸海軍藥局方一般
衛生試驗之部
藥品、飲料水、牛乳、酒類、淸凉劑、鑛泉
其他飲食物一般

東京産婆學校卒業
龍山十五間道路鐵道官舍十六號一
莊野キヌ

京城南大門外
果物問屋 [illegible]場

株式會社第一銀行
電話番號
第一二一番 國庫部、發行部、營業課、當直用
第二二六番 國庫部、發行部、營業課用
第三二六番 支配人、調査部、文書課用
第三三二番 用度係、分析所用
臨時部建築部用

新暦及春暦調進 [illegible]
電話六七番

GDS
リアル
土耳古煙草直輸入卸小賣
本品ハ特ニ原料ヲ精選シテ製シ特色ノ風味香氣ヲ有シ最モ高尙ナル飮料ニシテ來客用ニ適ス
ジーデーシエリス會社
出張所 明治町壹丁目 エムジーシエリス

京城日本人俱樂部を自今
京城ホテル
と改稱致し候
南山町三丁目
電話一二三番

免許
灸專術治療
梅毒、子宮、胃病、腦病、脚下マラリヤ、眼病、リヨマチス、神經痛其の他諸病に効能確實
本町七丁目北入花園町
むつ灸治療所
青木直太郎

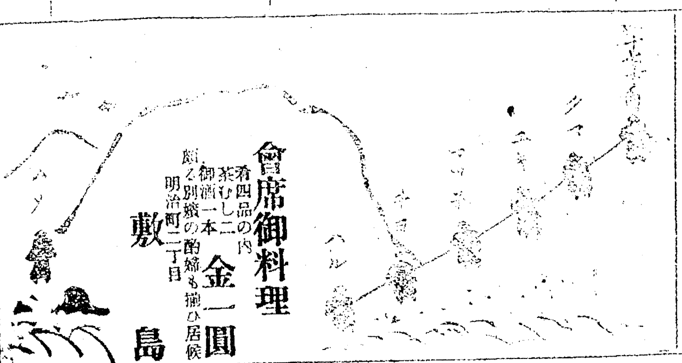
特約販賣自製

漬物 味噌 醬油 製造元
京城本町五丁目
大上商店
(電話二五一番)
和洋酒、◎精酢、穀物麵類銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、壜辛各種特約販賣
尙御望に依り商品切手調進仕候

梅毒、癩病、横痃、痔生殖器、皮膚病專門
京城皮膚病梅毒院
南大門轉入朝市場裏第一銀行舍宅横通
米倉町度支部官舍下角

統監府御用
諸官衙人力車
荷物荷造及運搬
營業 京城曙町 (電話七三番)
本店 同本町三丁目 (電話四〇番)
伊藤組

直輸入外國莨御披露
一トルコ紙卷 エジプト紙卷
一ハバナ葉卷 マニラ葉卷
其他パイプ、ケース、等附屬品一切右新荷物到着に付此際特別廉價を以て大勉强販賣可致候間御試驗の上御用向の程願上候
京城本町二丁目
トルコ煙草商
D. C. MENEASCO.

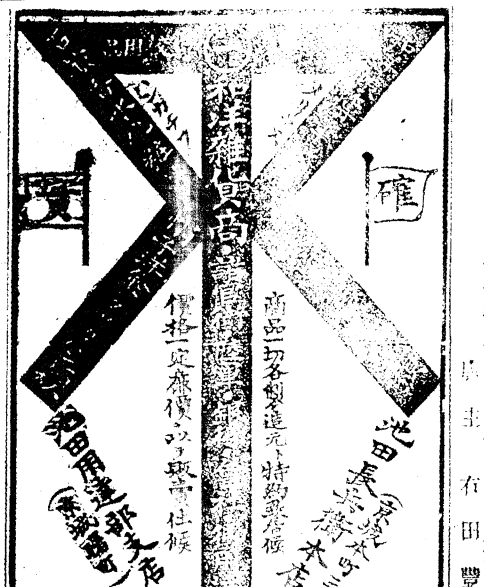


會席御料理
肴四品の内 茶むし 二 御酒一本 金一圓
顔ろ別嬪の酌婦も揃ひ居候
明治町二丁目
敷島

內外科
小兒科
花柳病
京城旭町二丁目
富久尾病院

西洋料理
東京高輪壽し
會席料理
丼類いろく
折詰辨當
同サンドーウヰッチ
南大門停車場構內
エーテー 淵田

▲轉宅荷物運搬
(京龍間建築土木材料其他諸貨物の運搬及び人夫請負)
弊店儀今般右の營業を開始仕候に付ては貨物の多少又は土地の遠近に拘はらず御報知次第直ちに店員を派出して御用命に應じ可申尙は弊店は責任を重んじ万一御委托物に對し店員の不注意より損害を加へ候節は弊店に於て其賠償の責に任じ決して御損失は相掛申間敷候間續々御用被仰付度此段謹告候也
京城南大門通り二丁目二十番戸浦商店向側
店主 有田豐太郎
有田運送店



◎支店開業披露◎
すき燒
一かしわ 御一人前 二十錢
一牛肉 同 十二錢
一海魚 同 二十錢
一茶碗むし 二十錢
一親子丼 二十錢
京城明治町二丁目 元菊紋跡
㊄ 川仁支店

亞鉛平浪及鐵板並度衡器
大工左官土工其他各工具類
錺鐵、眞鍮、銅、アルミニユーム製器具建築具其他金物一切
東京小泉式石油厨爐代理店
京城本町三丁目
辻淸和洋金物商店



詳細なる營業品目錄及び寸法用紙御入用の方は大至急御送呈す
流行の靴
甲革材料は柔軟にして丈夫なるクローム製Aボックスカーフ
◎代金引換小包に應じ其御足を紙の上に踏み其の周圍を鉛筆にて御足の實形を取り御送の事
尙は御常用の日本足袋文數御通知の事
東京市芝區愛宕下町
電話新橋三四三番
振替貯金口座四二七八番
龜田靴商店

石炭直輸入
京城旭町一丁目
島與商會出張所
取次(電話七四五番)
(ストーブ用は一俵以上配達可仕候)

京城
株式會社第五十八銀行
電話番號五十八
資本金三百萬圓
爲替取先組
畿內 大阪、京都、西京、奈良、郡山、八木、高田、田原、本貝、堺、岸和田、御影、兵庫、神戸、住吉、平野、吉、
東海道 東京、横濱、千葉、大磯、甲府、靜岡、沼津、濱松、豐橋、名古屋、半田、熱田、岐崎、四日市、津、山田、桑名、松阪、
東山道 彦根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、多治見、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、仙台、靑森、秋田、七浦、能代、
北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、高岡、富山、伏木、新潟、
山陰道 宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子、境、松江、濱田、久手、大田、宅野、
山陽道 龍野、明石、赤穗、姬路、西大寺、福山、笠岡、庭瀨、高梁、玉島、西江原、倉敷、鞆、府中、尾の道、三原、呉、宇品、廣島、岩國中宮市、三田尻、德山、小郡、山口、柳井本津、平生、長府、小月、下關、萩、岡山、
南海道 和歌山、尾の串、御坊、田邊、新宮、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、郡中、西條、松山、三津濱、高知、
西海道 門司、小倉、行橋、直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、佐伯、別府、長須、大分、湊(島原)、佐世保、唐津、伊萬里、牛津、呼子、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、
北海道 函館、小樽、札幌、
台灣 臺北、臺南、
淸韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、

銀行一般の業務精々便利に取扱可申候

日本郵船株式會社
濟物浦仁川出帆廣告
貨物及乘客取扱店
電話十番

仁川海岸通
郡回漕會
電話三九番

京城南大門通
巴商店
電話三〇六番

●釜山長崎門司神戸行
山東丸 月 日後三時出
●大連行
高砂丸 月 日後一時出
●大連、芝罘、秦皇島行
山東丸 月 日前五時出
●大連行
酒田丸 月 日正午出
●釜山出帆、浦鹽行
立神丸 月 日
御注意
御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金拾壹錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西大門通 京城新報社 電話六六三番